

経営比較分析表（平成30年度決算）

長野県 飯島町

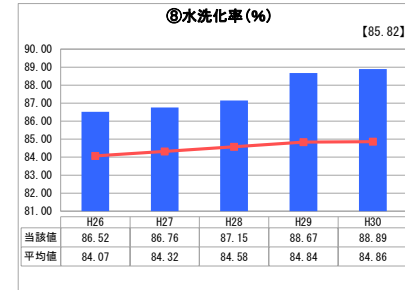
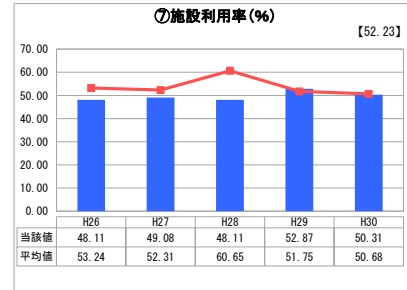
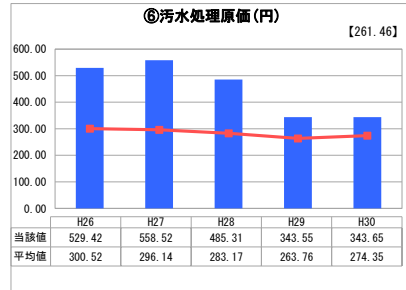
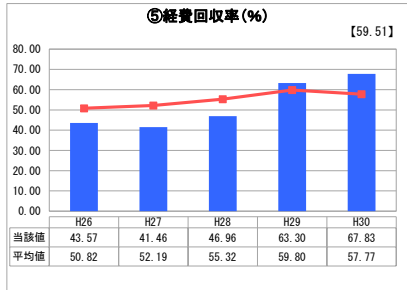
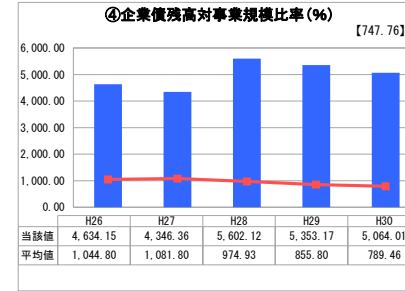
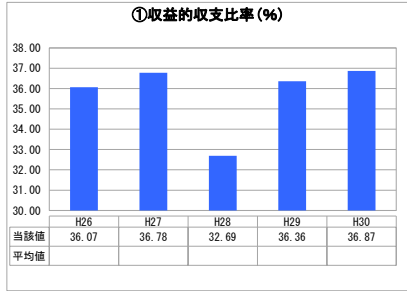
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	19.72	100.00	4,752

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,489	86.96	109.12
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,863	0.95	1,961.05

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

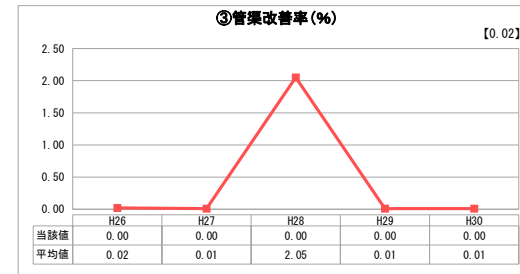
1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、昨年度より微増となりましたが、依然として30%台であり、厳しい状況が続いています。企業債残高についても、微減となっているものの、現在ピークを迎えており、事業規模に対する比率が非常に高くなっています。このため、使用料収入だけでは運営できず、一般会計からの繰入金に頼らざるを得ない状況となっています。経費回収率については昨年度より増となっていますが、使用料収入のみでは運営経費を賅えないため、汚水処理費の節減などの対策が必要です。汚水処理原価は、類似団体平均値に比べ高い値となっています。維持管理費の節減など対策が必要です。施設利用率は微減となり、汚水処理原価も高い数値であることから、公共下水道への統廃合を進めていきます。水洗化率は、高齢世帯を除くとほぼ概成しており、使用料収入の増加は難しいと思われます。このことから、維持管理経費の節減のため、前述のとおり統廃合を進めたいと思います。

2. 老朽化の状況について

最も古い管渠は、平成6年度に布設されたものであり、標準耐用年数が50年であるため、更新の予定は立てていません。しかし、近年大雨の際に不明水の流入が増加することから、管理コスト節減の観点より、早急な対策が必要であると考えています。処理施設については、標準耐用年数を超えた機器が増加しており、計画的に更新していく必要があります。最適整備構想の策定や、公共下水道への統廃合などを進めていく必要があると考えています。

2. 老朽化の状況



全体総括

事業全体の運営と今後の見込みについては、昨年度と大きな変化はなく、一般会計からの繰入金依存が続き、独立採算は難しい状況です。今後、老朽化した施設や機器の更新が必要であり、財源の確保が課題です。しかし、水洗化率がほぼ概成していることや、少子高齢化による人口の自然減に伴い、大きな使用料収入の増加は見込むことができません。将来的に、公共下水道へ統廃合することによる経営改善を期待しています。まずは、令和2年度からの法適用により、経営の見える化を図ります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。